

和泉地区副所長

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2009-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 哲也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/4320

〔副所長所見・和泉地区〕

和泉地区副所長・鈴木 哲也

本年度をもって情報科学センターを廃止し、2007年度から新たに情報基盤センターが設立されることになりました。本学における情報基盤の効率的かつ先端的な整備・活用を進めるために歓迎すべきことであります。ただ、これまで、情報科学センターの仕事を通じて、立場も専門も違うみなさんと仕事を一緒にさせていただき、様々な刺激を受け啓発されてきた私は、やや、センチメンタルな気分にもなっています。

和泉キャンパスにおいてはメディア棟が完成しましたので、今後は、さほど大規模な施設や設備の拡充は必要ないものと思います。今後の課題には、大きく二つのことがあげられるでしょう。

まず、情報・メディア環境の安定的な維持・運営という課題があります。そして、この「維持・運営」は既存の諸システムの現状を維持するだけにとどまりません。言うまでもなく、情報・メディアテクノロジーは、今なお、急速に進歩しつつあり、和泉キャンパスにおいてもこの進歩に対応して行かなければなりません。つまり、情報・メディア環境の維持・運営と言う場合、それは、様々な技術の進歩に迅速に対応し、かつ、トラブルなく運営してゆくことを意味すると思います。

こう言うと、和泉という文系キャンパスに最新の環境を取り入れる必要があるのか、という疑問が生まれると思います。しかしながら、現在の日本社会には、すでに情報・メディア技術が深く根づいており、企業活動をはじめとして、私たちの生活に不可欠なものになっています。そうした状況を考えれば、社会への巣立ちの準備をすべき学生たちに、最新の情報・メディア環境を提供することは大学の責任の一つであると思います。

これに随伴する問題があります。現在、文系各学部が独自の「情報・メディア」科目を設置する傾向があります。この傾向は、一面においては当然であり歓迎すべきであることは言うまでもありません。ただ、この傾向が無原則で進展した場合、和泉キャンパスにおける情報・メディア系の授業支援が破綻することは明らかであり、いわば、「情報科学センター以後」の教育内容の設定とその支援は、教育の情報化推進本部を中心として早急に検討しなければならない問題になっています。

二つめの問題は、情報・メディアシステムの利用の促進です。上で書きましたように、和泉キャンパスには一定の満足が行く環境が整ったと思います。ただ、その有効活用はまだまだなされていません。もちろん、すべての授業ですべての教員が情報・メディア機器を用いなければならないわけではありません。多様な教育内容や授業スタイルを尊重することは大学のあるべき姿です。ただ、すでに本学に整っているシステムを使えば、授業などがより効率的に進められるにもかかわらず、そのための情報がうまく共有されていませ